

大沢野・富山南道路 PI 事業を対象とした調査研究

金沢大学工学部 正会員	高山純一
金沢大学工学部 正会員	中山晶一郎
国土交通省富山工事事務所	小山浩徳
金沢大学工学部	○宮川愛由
国土交通省道路局	前川秀和

1. はじめに

ここ数年、社会基盤整備に関わる計画の決め方、進め方に関する見直しの機運が高まっている。近年の道路政策では、国民の価値観の多様化から行政による意思決定の透明性や国民意見の計画・事業への反映が求められている。このような背景の中、建設省道路審議会では建議の策定過程において、「キックオフレポート」による意見募集に始まる全国的な Public Involvement (以下 PI) を初めて実施した。また、新道路整備 5 ヶ年計画において PI 方式の導入が謳われており、全国的に PI 方式への関心が高まりを見せている。

PI 活動は、大きく計画段階の PI と事業段階の PI とに分けることができる。計画段階の PI は都市計画や道路計画、環境計画等において全体的方向性を定めることが目的である。一方、事業段階の PI は、具体的な個別事業が明らかな PI である。この段階では説明責任の達成、透明性の確保によって、事業の円滑化を図ることが目的となる。今回対象とする大沢野・富山南道路 PI 事業はルート案・インターチェンジの位置などの決定に際し PI 事業を導入していることから、事業段階の PI といえる。

近年、全国的にも PI 事業を導入している自治体は増えてきているが、その効果的なプロセスは十分に確立されていないというのが現状である。そこで、本研究では、調査事例として大沢野・富山南道路で実施された PI 事業を対象とし、より効果的な PI 手法の検証を目的とする。

2. 大沢野道路 PI 活動の概要

(1) 大沢野・富山南道路の概要

大沢野道路とは、富山高山連絡道路の一部であり、富山高山連絡道路は、平成 6 年 12 月に路線指定され

た地域高規格道路である。このうち約 6.6km が「猪谷楡原道路」として建設中であり、この猪谷楡原道路に続いて大沢野町を通り富山市へつながる約 9km の区間が大沢野道路である。さらに平成 15 年から「大沢野・富山南道路」と名称を変更し、富山市側を含めた約 13.1km の国道 41 号線に接続する全ての区間の道路整備計画に PI 事業を導入している。

(2) PI の経緯

大沢野道路活動の当初は、事業の情報を計画段階から提供し、意見募集・地域懇談会等により住民と対話の機会を持つことで、事業に対する理解を深めることが期待できるため、特に情報の提供に主点を置いた。早期に結論を出すためにも、PI 検討委員会での必要性を確認した後、事業者が最適と判断したルートを示し、インターチェンジの位置などの意見を募集する形をとることとした。

PI の導入は、平成 13 年 3 月の第 1 回 PI 検討委員会からスタートした。大沢野道路 PI 活動では①PI 検討委員会②PI 実行委員会③地域代表者による地域懇談会④経済団体・組織による地域懇談会の 4 つの組織が連携しながら情報提供や意見募集などの PI 活動を進めている。

(3) PI 事業活動

主な PI 活動としてはアンケート形式の意見募集、大沢野道路瓦版と称されたパンフレットの配布、住民説明会、イベント PR 活動などを行っている。

3. 研究のアプローチ

本研究では、大沢野・富山南道路 PI 活動の一環として、平成 14 年 6 月から平成 15 年 6 月まで 3 回に渡って実施された意見募集（はがき調査・サンプリング調査）のデータを用いる。第 3 回意見募集 (H15. 1

実施) から、第 5 回意見募集 (H15.6 実施) の結果を分析し、事業経過に伴う PI 活動に対する住民の認知度・関心度の変化を比較し PI 事業導入効果を検証する。また、属性をグループ化し、PI 事業手法の違いによる認知度の比較を行うことで、より効果的な事業手法の提案を行う。

4. はがき調査分析

大沢野町住民を対象に実施された第 4 回はがき調査 (H15.1)、第 5 回はがき調査 (H15.6) のデータを用いて分析を行った。図-1、図-2 はそれぞれ第 4 回、第 5 回はがき調査の「大沢野道路についてどの程度関心をお持ちですか」という質問項目に対する回答の単純集計結果である。その結果、「大いに関心がある」と回答した人の割合が 16.8%増加し、「あまり関心が無い」と回答した割合は 4.7%減少している。半年間の PI 事業活動により、大沢野道路の関心度が上昇していると考えられる。第 4 回はがき調査と第 5 回はがき調査で「大いに関心がある」を 4, 「少し関心がある」を 3, 「あまり関心が無い」を 2, 「全く関心が無い」を 1 点とし、両調査の結果を得点化し、平均値で独立サンプルの t 検定を行った。表-1 から大沢野道路関心度が調査前後で有意に上昇したことが確認された。

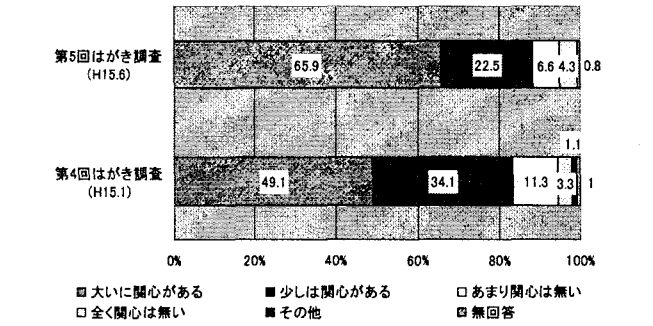


図-1 第 4 回、第 5 回はがき調査 大沢野道路関心度

大沢野道路関心度の得点比較結果		
大沢野道路関心度 * 0.01 で有意		
	平均値	回答者数
第4回はがき調査	3.319	943
第5回はがき調査	3.531	258
t値	-3.693	**

図-3、図-4 はそれぞれ第 4 回、第 5 回はがき調査の

居住地と大沢野道路関心度とのクロス集計結果である。結果として、表-2 から第 4 回はがき調査では有意水準 0.01 で居住地により大沢野道路関心度に有意に差があるという結果となった。しかし、表-3 から第 5 回はがき調査では有意な判定とならなかった。第 4 回はがき調査では小羽地区において約 2 割が「あまり関心が無い」と回答していたが、半年後の第 5 回はがき調査では、全ての人が「大いに関心がある」、または「少しは関心がある」と答えている。また、第 4 回の調査では、下夕地区において「全く関心が無い」と回答していた約 2 割が第 5 回はがき調査では 0 となっており、関心の高まりが見られる。以上の結果から、半年間の PI 事業活動によって居住地間に存在した大沢野道路関心度の違いが緩和されたことが示された。

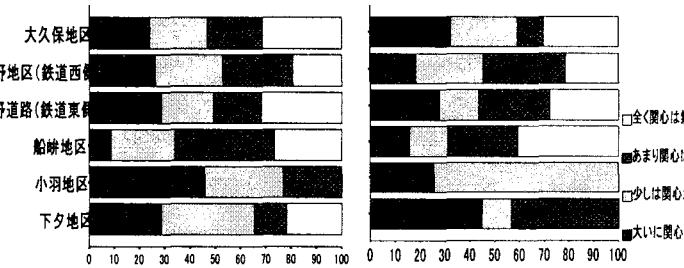


図-4 第 4 回はがき調査 居住地と大沢野道路関心度
図-5 第 5 回はがき調査 居住地と大沢野道路関心度

表-2 第 4 回はがき調査			
居住地と大沢野道路関心度クロス集計結果			
**:1%有意 * :5%有意			
χ2乗値	自由度	P 値	判定
32.87	15	0.005	**

表-3 第 5 回はがき調査			
居住地と大沢野道路関心度クロス集計結果			
**:1%有意 * :5%有意			
χ2乗値	自由度	P 値	判定
15.81	15	0.394	

5. おわりに

現在は第 3 回・4 回・5 回意見募集のデータ整理を行っている段階である。属性ごとのより効果的な PI 手法を検討するためグループ化を行う作業を進めている。また、引き続き分析作業を行い、共分散構造分析を用いた分析の有効性も検討する予定である。